



薩摩川内市立水引中学校「学校だより」

みずひき

〒899-1921 鹿児島県薩摩川内市水引町7602番地1
TEL:0996-26-2104 FAX:0996-26-3908

11月号

令和5年11月21日発行



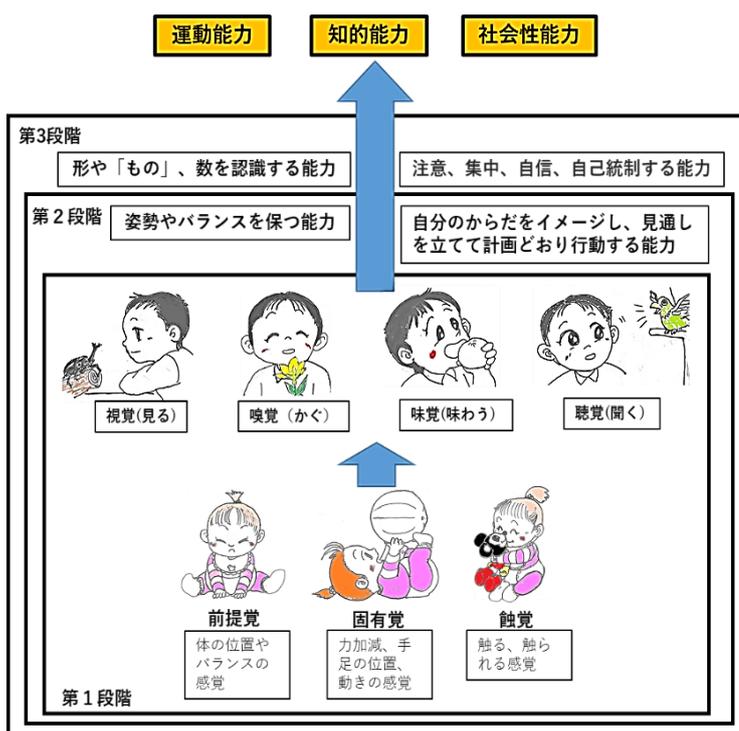
水引中ホームページ・ブログのQRコード↑

学習能力、運動能力は、発達とともに

校長 日高 正人

水引中学校区総合文化祭は、不断の学習の成果を存分に発揮できたこともあって、学校運営協議会の委員の方々から、多くのお褒めの言葉をいただくことができました。これは、児童生徒の皆さんの努力と先生方の日頃からの熱い指導の成果であると、校長として誇らしく感じています。先生方によって子供たちの個性や特性が上手に引き出されて、「できた。」という思いと自己肯定感や自己有用感を高める良い機会となりました。児童生徒と先生方の良好な関係性という基盤がしっかりしていることが、今回の成果となったことを感じています。

さて、これまで認知や記憶について述べてきましたが、いずれも、「発達の基盤」が整って、初めて大きく成長できるということです。感覚成長期の6か月・3歳児健診、そして未就学期に発達の偏りに気付くことや、偏りがある場合にいかに早く療育につなげることができるかが、その後の発達成長に大きな差として現れてきます。周囲の大人の無理解や子供がかわいそうという勘違い、世間体などによって、療育等で感覚を育てる時期をなくして、小学校以降に大きなつまづきや挫折感を味わっている場合も多いのです。発達の基盤ができていないと、学習以前の問題でつまづいて、学力向上どころではないことを大人が理解することが大切です。



人は、発達する際に段階を一段ずつ上がるように発達していきます。発達のためには、その時々得られる感覚や経験というブロックを一段ずつ積み上げて成長していくので、その段階ごとの感覚や経験が少ないと能力の発達に偏りが出てしまいます。左図のように、子供は、「固有覚」「前庭覚(平衡感覚)」、「触覚」という3つの感覚を獲得していきます。この3つが「視覚」、「聴覚」、「嗅覚」、「味覚」というほかの感覚と脳内で統合されて「運動能力」や「知的能力」を身に付けていきます。これが能力獲得の第1段階です。そして、第2段階から、形や「もの」、数を認識する能力、そして注意、集中、自信、自己統制する能力の獲得の第3段階と能力を獲得していきます。この第3段階の能力までが基礎能力となり、初めて教科学習ができる土台ができることとなります。この基礎能力は、小中学生や大人まで影響が出てきます。例えば、仕事や学習に集中できないと思った(第3段階の能力がうまく

機能していない)とき、姿勢が崩れていることがないでしょうか。耳障りな音、目に入る気になるもの、不快な室温など感覚に起因するものがないでしょうか。物事に集中できないときは、自分の姿勢や周囲の環境を気にしてみることやモノを見る、指示を聞くなど視覚や聴覚を意識することで、集中力を増すことができることがあります。

では、思春期の中学生の場合は、どうでしょうか。感覚の発達は、感受性の強い6歳までといわれますが、感覚の偏りが無い限り(特定の感触を嫌がる、髪の毛をいつも触る、筆圧が弱い等)、感覚に基づく様々な能力を伸ばすことは可能です。前号で「脳育て」や「記憶」について述べたように、規則正しい生活の基、「正しい姿勢」、「書く」、「読む」、「見る」などの活動を(第1段階)意識して、学習や運動に取り組むことで、力を発揮できます。リハビリテーションの手法では、弱い部分を鍛えるのではなく、ほかの部分と一緒に鍛えることで、全体的に底上げをしていきます。これは、感覚を鍛えることや学習能力、運動能力にも同じことが言えます。学力、運動能力向上のためには、発達の基盤である第1から第3段階までの得意な感覚を意識して、それを生かした方法で取り組むことが、近道ではないでしょうか。

